

# 病害虫発生予察注意報 第4号

## 病害虫名：斑点米の原因となるカメムシ類

1 発生予想 カメムシ類の発生が多く、斑点米が多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

### 3 根拠

- (1) 7月中下旬に水田畦畔雑草においてカメムシ類の発生調査を行ったところ、過去3ヶ年の平均と比べ一般的に捕獲数の多い傾向がみられ、特に南信地域で捕獲数の多い調査地点が多かった(表1)。
- (2) 県下7地点に設置している予察灯のうち、3地点においてアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数が平年に比べ多い(図1)。
- (3) 気象庁7月29日発表による向こう1か月予報で、気温については3～4週目に平年並または高い確率がともに40%となっている。
- 以上のことから、地域によって斑点米の原因となるカメムシ類の水田への侵入や加害が多くなると予想される。

### 4 防除対策と留意点について

- (1) 出穂期間際の畦畔の草刈りは、カメムシ類を本田内に追い込む恐れがあるので行わない。
- (2) イネの斑点米の原因となるカメムシ類は、通常、雑草等で繁殖し夏期に水田へ移動してくるため、畦畔の雑草等の周辺環境の差で発生量が異なる。出穂期以降は、水田内のカメムシ類の発生に注意し、穂揃期に水田内でネット20回振を行うなどして、地域における発生量及び発生種の把握に努め、薬剤選択等防除の参考とする。
- (3) 出穂の早い品種については、斑点米の発生が多い傾向であるため特に注意する。
- (4) 防除薬剤は長野県農作物病害虫・雑草防除基準に基づいて選定する。
- (5) 水稻の生育状況を確認し適期防除に努める。粒剤散布を行っていない場合には、出穂10日後に粉剤、又は液剤で防除を実施し、発生が多いほ場ではさらに7～10日後に追加防除を実施する。
- (6) 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺への飛散防止に努める。また、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する場合には、ミツバチの危害防止対策を徹底すること。

表1 水田畦畔等におけるカメムシ類の発生量(7月中下旬)

地域	捕獲地点率(%)		捕獲数(頭)				主な発生種
	本年	H20～22年 3ヶ年平均	平均	本年 最多	最少	H20～22年 3ヶ年平均	
東信	38.5	57.9	2.4	5	1	2.3	アカゲ、材ゲ
南信	87.9	56.3	13.3	86	1	6.5	アカゲ、アカジ
中信	73.3	47.9	11.4	67	1	16.2	アカゲ
北信	29.4	61.3	15.2	62	1	4.1	アカゲ
県全体	64.1	55.9	12.0			7.2	

注1) 調査方法：畦畔、雑草地においてネットを20回振って捕獲された斑点米の原因となるカメムシ類(成虫及び幼虫)を調査

注2) 捕獲地点率(%)：調査地点のうち斑点米の原因となるカメムシ類が捕獲された地点の割合

注3) 平均捕獲数(頭)：捕獲数計(成虫数+幼虫数)÷捕獲地点数

注4) H20～22年3ヶ年平均：平成20年～22年調査の平均値(ただし、下伊那と木曽地域は平成20年調査データ欠測)

注5) アカゲ：アカゲホソミドリカスミカメ、材ゲ：材ゲシホカムシ、アカジ：アカジカスミカメ

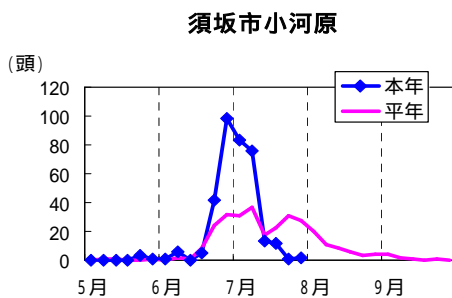
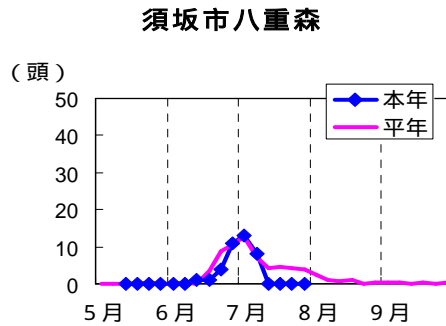
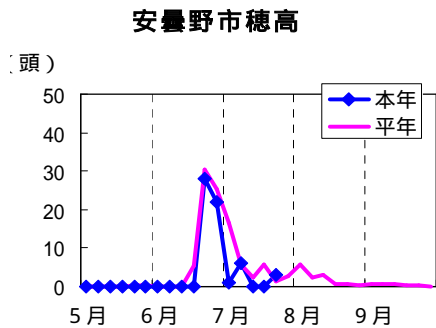
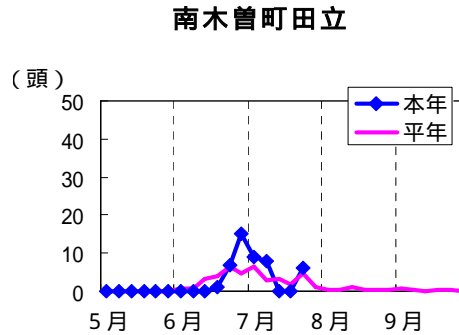
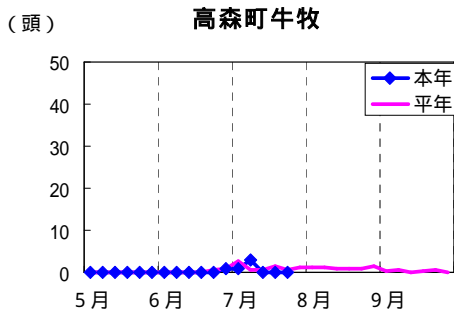
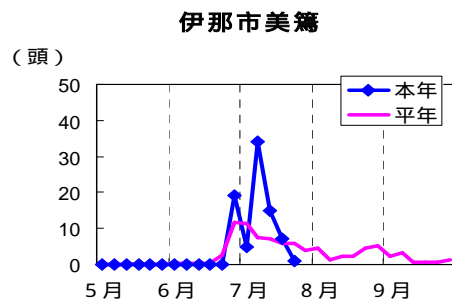
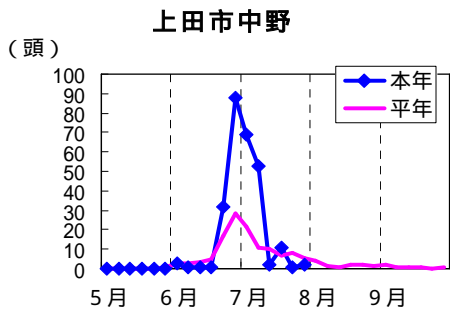


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺消長(予察灯)

注) 平年については平成13~22年(10年間)の平均値。

ただし、須坂市小河原は平成14~22年(9年間)の平均値



写真1

アカヒゲホソミドリカスミカメ(成虫)

(体の大きさ: 6mm程度)



写真2

アカスジカスミカメ(成虫)

(体の大きさ: 6mm程度)

長野県病害虫防除所  
 担当: 飯島 章彦(所長)  
 湯本 純(担当)  
 TEL: 026-248-6471(直通)  
 FAX: 026-248-6473  
 E-mail: bojo@pref.nagano.lg.jp